

## 授業開きに寄せて

いよいよ新年度が始まりました。担任の先生から真新しい教科書を配布された子どもたちは、どんな授業が受けられるのか期待感に胸をふくらませていることと思います。

それが外国語活動という新しく学習する領域であれば、なお一層期待感が高まるでしょうし、中には多少の不安を感じている子どももいるかもしれません。担任は、そうした子どもたちの期待や不安に寄り添いながら、しっかり気持ちを受け止め授業を組み立てていくことが重要です。

外国語活動では教科書ではなく英語ノートを活用して学習することになります。すでに文部科学省から直接学校へ送付されていることと思います。英語ノートは、外国語活動の3つの目標に沿って、第1に「言語や文化について体験的に理解を深める。」、第2に「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。」、第3に「外国の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。」を基本に作成されています。また、小学校の外国語活動のねらいは、中学校の授業のように、「話せる」「聞ける」といった英語のスキル(技能)を身に付けさせることではなく、「コミュニケーションの楽しさ」「言葉の面白さ」を体験させ、コミュニケーション能力の素地を育成することです。この点に充分ご留意ください。

英語ノートには1と2があり、ノート1が5年生用、ノート2が6年生用になります。

英語ノート1は「メルヘン」をテーマに教材が組み立てられています。世界の様々な国のあいさつや衣装、日本の漢字などが取り上げられています。英語ノート2は「ファンタジー」をテーマに教材が組み立てられ、世界の様々な文字、日本の伝統行事、世界遺産などが取り上げられています。その他にも、パラパラ漫画がノートの下に掲載されているなど、楽しい内容が盛りだくさんです。是非、授業の最初に、子どもたちに紹介してください。

## 学級担任が中心になって授業を進めるためのポイント

子どもたちの外国語活動に対する期待と不安に対し、子どもたちのことを一番よく理解している担任が適切に指導していくことで、未知の外国語を口にする不安は和らぎ、意欲的に学習に取り組むことができます。次に、担任として留意すべき点を挙げましたので参考にしてください。

- ① 子どもの興味関心をしっかり把握すること。
- ② ゲームなどのコミュニケーションを図る活動が子どもの実態に即していること。
- ③ 教員自らが、外国語活動に取り組むモデル・外国語を使うモデルとしての積極的な姿勢を示すこと。
- ④ 受容的な雰囲気子どもたちに接すること。
- ⑤ 子どもたちのよい面を認め、積極的にほめるようすること。
- ⑥ 日頃の学級経営を通して、お互いの発言を認め、高め合う雰囲気を築いておくこと。

## 1時間の流れ

英語ノート指導資料にはレッスンプランが掲載されていますので、授業計画を立てる際の参考にしてください。また、下には1時間の授業を組み立てる上での大まかな流れ及び教師の支援や留意点を掲載していますので、併せて参考にしてください。

授業の流れ	教師の支援や留意点
① Greeting 時間にあったあいさつ及び体調について尋ねる。	○ 教師自ら大きな声で、英語であいさつする。できれば、全体に投げかけた後、個別に声かけをする。子どもたちの反応に、一言返すようにする。
② Warming-up 歌やチャンツ	○ 歌やチャンツはメロディーが簡単で耳に残りやすいものや、繰り返しが多く口ずさみやすいものを提示するようにする。
③ Main activities 様々なゲームや コミュニケーション活動	○ 活動のねらいを明確にして、それにふさわしい活動を仕組むようにする。 各レッスンの1時間目は、聞くことや言うことに慣れる活動を中心に、2時間目、3時間目になるにつれ、自分が選んだり自己決定したりする活動を取り入れるようにする。 また、言語の面白さに気づいたり国際理解に関する内容を取り入れたりもする。
④ Wrap-up(Looking back) 1時間の学習活動の振り返り 自己評価カードの記入 教師による全体への返し	○ 授業を振り返り、子どもたちの良かった点を取り上げてほめ、次時の学習への期待感を高めるようにする。 評価用紙等をつかって子どもたちにコミュニケーションの楽しさ等を振りかえさせるようにする。
⑤ Closing 別れのあいさつをする	○ 元気に英語であいさつをする。

## 外国語活動における小中連携研修の変更について

外国語活動だより12号で紹介しました小中連携の研修会期日が変更になりましたのでお知らせします。なお、開催地等の変更はありません。

期日 旧：平成22年11月19日（金）→新：平成22年11月22日（月）

会場 山口市（山口県セミナーパークを予定）

内容 小中の円滑な接続に焦点を当てた研修(教科調査官等による指導)

対象 小・中学校教員、指導主事